

「五千人の給食（後篇）」

マルコの福音書 6:39~44

はじめに

今日の箇所は、前回に続き、「五千人の給食」と呼ばれる、イエシュアがたった五つのパンと二匹の魚で、男だけで五千人（女性や子どもも合わせるとおそらくその倍以上の人数）の空腹を満たしたという奇蹟が記された箇所です。今日はその後篇です。私たちは普通、腹を満たす、「食べる」という言葉を聞くと、口から、そしてお腹に入り、それが生きるために必要な様々な栄養や力を得ることと考えます。しかし聖書は本来、この「食べる」という行為をそのようには指し示していません。以下の箇所は聖書で最初に「食べる」という言葉が使われた御言葉です。

【新改訳 2017】創世記

2:16 神である【主】は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

2:17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

これは神がエデンの園において、人に「命じられた」最初にして唯一の命令です。このように「食べてよい」、また「食べてはならない」とあり、「食べる」という言葉は本来、神のご命令、戒め、掟、律法を指し示すものであると考えられます。そしてもし「食べてはならない」ものを食べる、すなわち神のご命令に聞き従わないなら、「必ず死ぬ」ことが示されています。神に聞き従うなら大いに生きる、しかし背くなら必ず死ぬ、という神のご命令がこの「食べる」、ヘブル語でアーハル(אָחַל)という言葉には本来指し示されているのです。このような解釈、概念を持ちつつ、聖書を読み解いていけば、そこには奥義と呼ばれる、隠された神の御心、ご計画を見ることができるようになります。今日も私たちの願い、あるいは抱えている悩みや問題から目を離し、神がなそうとしておられる事、神の願いだけに目を留め、そのご計画の完成を思い巡らす時、永遠に続く、本当の現実を直視する時としたいと思います。

1. 人々

【新改訳 2017】マルコの福音書

6:39 するとイエスは、皆を組に分けて青草の上に座らせるように、弟子たちに命じられた。

6:40 人々は、百人ずつ、あるいは五十人ずつまとまって座った。

まずイエシュアは弟子たちに命じて、群衆を「組に分けて青草の上に座らせ」ました。そしてそれは「百人ずつ、あるいは五十人ずつまとまって座」らせることであつたとあります。ここで使われている「座る」という意味のヘブル語はヤーシャヴ(יָשַׁב)と言い、これは本来「住む、住まわせる」という意味の言葉で、しかもその住む場所はある特別な意味を持った場所を指し示していました。

【新改訳 2017】創世記

4:16 カインは【主】の前から出て行って、エデンの東、ノデの地に住んだ。

このカインは、最初の人アダムの子で、人類史上最初の殺人を犯した人物です。彼は自分の弟を殺すという罪を犯してしまいましたが、その罪の重さに苦しみ、神を呼び求めました。すると神は彼を「エデンの東」にヤーシャヴ、住まわせました。ここはエデンの園の入り口にあたり、彼の両親であるアダムとエバが園を追い出された後、神はこの「エデンの東」に御使いケルビムと炎の剣を置き、園を守らせていました。(創世記 3:24) ですからこの「座らせる、座った」と訳されたヤーシャヴという言葉には本来、エデンの園、神の園を守るという意味、目的が指し示されていると考えられ、この座らされた「人々」とは、そのような役割を命じられる存在を表した「型」であると考えられます。すなわちそれはやがて来る「御国、神の国」におけるイスラエルの民とそれにつながる私たち教会を指し示していると考えられます。

またイエシュアは「青草の上に」座るようにと命じられました。イエレク(יֵרֵק)というヘブル語がここに使われており、この言葉は本来、あらゆる生き物の食物として与えられるものを指して使われました。

【新改訳 2017】創世記

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

1:29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、地の全面にある、種のできるすべての草と、種の入った実のあるすべての木を、今あなたがたに与える。あなたがたにとってそれは食物となる。

1:30 また、生きるいのちのある、地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのもののために、すべての緑の草を食物として与える。」すると、そのようになった。

この記述は神の天地創造の御業の第六日目を記したものです。ここで「緑の草」と訳されている箇所には聖書で最初のイエレクが使われています。このように、イエレクは地上のすべての生き物を指し示しており、「神の国」とは、かつてのエデンがそうであったように、多くの生き物たちの宝庫であるということです。そしてその「海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配」させるための人の存在と目的を指し示してイエシュアは「人々」を「青草の上に座らせ」られたのだと考えられます。

そしてイエシュアは「皆を組に分け」られました。ここにハーヴァル(חֲבַר)という言葉が使われており、これは本来、戦いのために「結集する」という意味で使われた言葉です。(創世記 14:3) イエシュアはそれを一組「百人ずつ、あるいは五十人ずつ」という形に分けられました。「百」はヘブル語でメーアー(מֵאָה)、
「五十」はハミツシーム(חֲמִשִּׁים)で、それぞれの最初の言及の箇所は異なりますが、結集して、一組として使われた最初の箇所は創世記 7:24 になります。

【新改訳 2017】創世記

7:24 水は百五十日間、地の上に増し続けた。

これはノアの時代に起こった大洪水を記したものです。このように、「水は百五十日間、地の上に増し続けた」とあり、「百」また「五十」という数が「地の上に増し続け」るという状態を指し示しており、イエ

シユアの命じられた「百人ずつ、あるいは五十人ずつ」という言葉にも同様のメッセージが込められていると考えられ、すなわちかつてエデンに住む人に与えられた「生めよ。増えよ。地に満ちよ。(創世記 1:28)」という御言葉、神の祝福が、「神の国」に住まう人々の上に表されるということであると考えられます。つまり「神の国」とは、創世記の初めに記された、神が「見よ。それは非常に良かった。(創世記 1:31)」と言われた、あのエデンの園を再び回復させることを意味していると考えられます。

2. 五つのパン

【新改訳 2017】 マルコの福音書

6:41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂き、そして人々に配るように弟子たちにお与えになった。また、二匹の魚も皆に分けられた。

そして五つのパンと二匹の魚、これが指し示す意味について改めて考えます。まず五つのパンについて。

【新改訳 2017】 創世記

1:20 神は仰せられた。「水には生き物が群がれ。鳥は地の上、天の大空を飛べ。」

1:21 神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。

1:22 神はそれらを祝福して、「生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ」と仰せられた。

1:23 夕があり、朝があった。第五日。

神の天地創造の御業の「第五日」、この日は「神はそれらを祝福して」とあるように、神が祝福するという行為を聖書で初めて行われた日です。ですから「五、五つ」という数には神の祝福という意味があると考えられます。その祝福とはつまり「増える、満ちる」ということです。ですから実際にたった五つのパンは増え、人々のお腹は満たされたのだと言えます。そしてパンのことをヘブル語でレヘム(לֶחֶם)と言いますが、もともとは「糧」という食物全般を指す意味で使われました。

【新改訳 2017】 創世記

3:17 また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。

3:18 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。

「顔に汗を流して糧を得」とあり、レヘムとは本来、「苦しんで」労働によって、労苦を経て得るものという、苦しみの中を通ることを指し示すものであると考えられます。その理由は、「食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので」、つまり神に聞き従わなかったためです。ですから「五つ」の「パン」には、「苦しみを通して得る神の祝福」というような意味、メッセージが込められていると考えられ、

これを体現しているのが神の選びの民であるイスラエルです。旧約聖書に記された彼らの歴史は、偶像礼拝をはじめとする神への不従順、不信のゆえに受ける苦難と、そしてそこから神の御業によって助け出されて回復し、祝福され、しかしまた墮落していくという、その繰り返しです。しかしそれらはすべて神のご計画の完成である「神の国」を受け継ぐという祝福を得るために通らされる患難を指し示した「型」であり、イスラエルの民、ユダヤ人は、やがて大きな患難を通らされ、その後に「神の国」を受け継ぐ、という神のご計画が、この「**五つのパン**」には表されていると考えられます。

そしてイエシュアは祝福してこの「**パンを裂**」かれました。ここでなぜイエシュアはパンを裂かれたのかという疑問を持つ人はあまりいないでしょう。皆に分け与えるのだからあたりまえだと考えるからです。しかしこの行為にも意味があると考えます。ここで使われている「裂く」という意味のヘブル語**פָּרַס**(פָּרַס)は本来、足のひづめが「分かれた」動物を指し示す言葉です。

【新改訳 2017】レビ記

11:2 「イスラエルの子らに告げよ。次のものは、地上のすべての動物のうちで、あなたがたが食べてもよい生き物である。

11:3 動物のうち、すべてひづめが**分かれ**、完全にひづめが割れているもので、反芻するもの。それは食べてもよい。

これはイスラエルの民が食べてよいとされている動物についての説明です。「**ひづめが分かれ**」という箇所聖書で最初のパーラスがあり、このような動物は神に受け入れられる「きよい動物」とされ、食べることが許されました。ですからイエシュアが「**パンを裂**」かれたのは、イエシュアによって、イエシュアを通してイスラエルの民は神に受け入れられる、きよい、聖別された民となるという事実を表すためであったと考えることができます。確かにイスラエルの民は、彼らの父祖アブラハム、イサク、ヤコブの時代から神の選びの民とされてはいましたが、それは契約、約束のみであり、成就、実現されたものではありませんでした。これが実際に果たされるためには、イエシュアの十字架の死による罪の贖いと、そしてイエシュアがイスラエルの王、メシアとして立たれることが必須条件なのです。それがこのイエシュアの手によってパンが裂かれた行為には表されていたと考えられます。

そしてイエシュアはこの裂かれたパンを、「**弟子たちにお与えになった**」とあります。それは「神の国」のご計画についてこうあるからです。

【新改訳 2017】マタイの福音書

19:28 そこでイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界で、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めます。

これはイエシュアが、使徒とも呼ばれる十二弟子に語られた約束、神のご計画です。「**人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界**」すなわち「神の国」が完成する時、「**イスラエルの十二の部族**」は、彼らに与えられるのです。その事実が、神のご計画が、この裂かれたパンが弟子たちに与えられたという出来事の中に「型」として表されていると考えられます。

3. 二匹の魚

次に二匹の魚について考えます。先の五つのパンが「神の国」のご計画におけるイスラエルの民、ユダヤ人を表しているならば、当然この二匹の魚は、私たち異邦人の教会を指し示しているのが自然ですが、それがどのように指し示されているのかを見てみましょう。まず二匹の「二」という数について。

【新改訳 2017】創世記

- 1:6 神は仰せられた。「大空よ、水の真ただ中であれ。水と水の間を分けるものとなれ。」
1:7 神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた。すると、そのようになった。
1:8 神は大空を天と名づけられた。夕があり、朝があった。第二日。

神の天地創造の「第二日」。ヘブル語で「二」を意味するシェーニー(שְׁנַיִם)の最初の言及であるこの日は、神が「大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた」日です。それまでひとまとまりであった水の一部を分け、それを「大空の上にある水」すなわち「天」の上にあるものとされ、また他の一部は下に残されたということであり、イエシュアの空中再臨による教会の携拳がこの記述と結びつくと考えられます。この携拳について、イエシュアもこのように預言されています。

【新改訳 2017】マタイの福音書

- 24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。
24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。
24:32 いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかくなって葉が出て来ると、夏が近いことがわかります。
24:33 同じように、これらのことをすべて見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。
24:40 そのとき、男が二人畑にいると一人は取られ、一人は残されます。
24:41 女が二人臼をひいていると一人は取られ、一人は残されます。

このように教会の携拳とは、イエシュアが地上に再臨される前に起こる出来事であり、「人の子が戸口まで近づいていることを知」らせるもので、地上ではなく「天に現れ」る、空中で起こる出来事です。そしてそれは「二人…いると一人は取られ、一人は残され」というもので、イエシュアが語られたこのたとえからも「二」という数が教会の携拳を指し示していると言えます。

そして「魚」は本来、以下のように記されました。

【新改訳 2017】創世記

- 1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

先ほど「二」という数の最初の言及である創世記 1:6~8 で、水が分けられたことを見ましたが、「海の魚」とあるように、魚はこの水の中でのみ生きる生物であり、水と魚は切っても切れない関係です。ですから「二」についての先の解釈が、そのままこの「魚」にも当てはまると考えられます。またこの「海」とは、神が水に向かって「天の下の…一つの所に集まれ。(創世記 1:9)」と言われて生じたものです。私たち教会は烏合の衆ではなく、神によって呼び集められた者たちの集まりと言われます。ですからこの「海の魚」の中に、私たち教会の姿を見ることができると考えます。ちなみに教会をスタートさせたイエシュアの十二弟子たちのうちのほとんどは、この「海の魚」を捕る漁師でした。ですからこの「二匹の魚」とは、携拳される私たち教会を表していると考えられます。

そしてイエシュアは「二匹の魚も皆に分けられた」とあります。ここで使われている「分ける」と言う意味のヘブル語ハーラク(קָלַף)は本来、アブラハムとそのしもべたちを分ける(創世記 14:15)という出来事を指し示しており、アブラハムの子孫であるイスラエルの民からハーラク、分かれて携拳される教会に対する神のご計画が、イエシュアのこの行為には表されていると考えられます。

このように「五つのパンと二匹の魚」についての記述、イエシュアのなされた行為には、イスラエルと教会に対する神のご計画がそれぞれに表されており、それがすべてイエシュアによって成し遂げられることが指し示されていると考えられます。

4. 五千人

【新改訳 2017】マルコの福音書

6:42 彼らはみな、食べて満腹した。

6:43 そして、パン切れを十二のかごいっぱい集め、魚の残りも集めた。

6:44 パンを食べたのは、男が五千人であった。

そして「彼らはみな、食べて満腹した」とあります。ここに使われている「満ち足りる」という意味のヘブル語サーヴァ(שָׂבַע)、この最初の言及は創世記 25:8 です。

【新改訳 2017】創世記

25:8 アブラハムは幸せな晩年を過ごし、年老いて満ち足り、息絶えて死んだ。そして自分の民に加えられた。

このように、サーヴァとは本来、「自分の民に加えられ」ることを指し示しており、そしてそれは「アブラハム」に与えられた神の約束、契約の民、すなわち「神の国」の民に加えられることであると考えられます。その事実が「彼らはみな、食べて満腹した」という記述には表されていると考えられます。

そして「パン切れを十二のかごいっぱい集め、魚の残りも集め」られました。この「十二のかご」、「十二」という数がイスラエルの十二部族、回復されたイスラエルの民を指し示すものであることは以前述べました。そして「集めた」と訳されているナーサー(נָסַר)は本来、神に受け入れられる(創世記 4:7)

ことを意味する言葉です。ですからここにはイスラエルによって、イスラエルを通して神に受け入れられることが「神の国」の民であるということが表されていると考えられます。

「五」という数が神の祝福を指し示していることは先に述べました。そして「千」という数についてですが、これをヘブル語でエレフ(אלף)と言い、最初の言及は創世記 20:16 です。

【新改訳 2017】創世記

20:14 アビメレクは、羊の群れと牛の群れと、男女の奴隷たちを連れて来て、アブラハムに与え、またアブラハムの妻サラを彼に返した。

20:16 サラに対しては、こう言った。「ここに、銀千枚をあなたの兄に与える。これはあなたにとって、また一緒にいるすべての人にとって、あなたを守るものとなるだろう。これであなたは、すべての人の前で正しいとされるだろう。」

ゲラルの王アビメレクは、アブラハムの妻サラを自分のものにしようとしていました。それはアブラハムがサラを妹だと言ったためでしたが、神の介入により真実を知ったアビメレクは、サラをアブラハムに返し、その時一緒に「銀千枚」をも与えました。ここに聖書で最初のエレフがあります。そしてアビメレクはこのエレフについて言います。「これはあなたにとって、また一緒にいるすべての人にとって、あなたを守るものとなるだろう。これであなたは、すべての人の前で正しいとされるだろう。」ですからこのエレフには本来、「アブラハムとともにいるすべての人は守られ、正しいとされる」という意味が込められていると考えられ、つまりこの「五千人」とは、アブラハムの子孫であるイスラエルと一緒に、この民とともに生きることで祝福される人々、地上のすべての民を指し示しており、それが「神の国」の成就、完成であることが表されていると考えられます。

【新改訳 2017】創世記

12:1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。」

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。」

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

このように、この「五千人の給食」の奇蹟もまた、神の国のご計画を表す「型」として読み解くことができます。イエシュアによって、イスラエル、そして教会を通して、それは成就、完成します。その時は刻一刻と近づいています。